

15 広域的な観光振興に関すること



(1) 経緯

南北に長い北アルプス地域は、四季折々、様々な表情を見せる自然環境に恵まれ、その美しい景観を財産とし、自然とともに発展してきました。

北部には、雄大な北アルプス連峰を背景に持つ HAKUBA VALLEY をはじめとしたいくつものスキー場があり、南部には、安曇野の風光明媚な田園風景が広がっています。また、温泉や湖、山岳観光のほか、平成 28 年度に全面開園となった国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）や、黒部ダム・立山黒部アルペンルートの長野県側の玄関口といった、通年の観光資源を有しています。

関係市町村は、その多岐にわたる観光資源を活かしながら、魅力ある観光地づくりに取り組んできました。また、関係市町村に安曇野市や各種団体を加えた「大系線ゆう浪漫委員会」などにより、それぞれの観光地を有機的に結び付けた広域観光キャンペーンを行ってきました。

広域連合では、北アルプス地域を訪れる旅行者に、市町村ごとの「点」ではなく、「面」として捉えていただけるよう、広域観光パンフレットの作成や広報紙・ホームページ等でイベント情報の発信を行ってきました。

(2) 現状と課題

北アルプス地域は、海外からの旅行者が多数訪れる世界的な観光地です。また、山岳高原、温泉、美術館、博物館など多様性に富んだ魅力ある観光資源を有する国内有数の観光エリアです。

令和元年度には年間約 700 万人が北アルプス地域を訪れましたが、令和 2 年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、訪日外国人旅行者（インバウンド）を含め大きく旅行者が減少し、令和 3 年度には約 410 万人にまで落ち込みました。しかし、令和 4 年度には約 530 万人にまで増加するなど、約 4 割減少した観光需要はコロナ禍の終息と共に回復傾向にあります。

長野県では、四季を通じて観光客を呼び込むため、サイクルツーリズムの推進、農業振興と連携した体験型観光の充実、地域DMOの設立支援等に加え、地域経済の活性化と地域住民の利便性の向上のため、地域高規格道路「松本系魚川連絡道路」の調査検討や整備を進めています。主要な駅からの2次交通の充実を含め、観光路線の整備は北アルプス地域の課題となっています。

関係市町村は、観光誘客宣伝のためのプロモーション活動やイベントの開催、ホームページでの情報発信等を実施するとともに、自然環境、文化財、特産品、農産物等の様々な地域資源を組み合わせ、商工業や農林水産業等への波及効果がある施策の調査研究を行っています。

広域連合では、情報発信事業等により関係市町村の観光振興事業に協力しています。関係市町村の観光担当部局と連携し、管内で行われる観光イベント情報を取りまとめ広報紙により発信するとともに、ホームページをスマートフォンからの閲覧もできるようにリニューアルし、定期的に発信しています。また、関係市町村で行われる観光・地域振興イベントに対し、補助を行うことで支援しています。

近年の観光事業を取り巻く状況は、「団体旅行から個人旅行へ」といった旅行形態の変化、「モノ消費からコト消費へ」といった旅行ニーズの変化、さらにはSNSの普及による情報の発信など、年々大きく変化しています。旅行者の観光に対するニーズが多様化する中、今後は、観光資源を広域的に結びつけることで魅力を高め、アフターコロナによる観光需要の変化に対応するため、旅行者の世代や季節などに応じて、効果的な情報発信を行っていく必要があります。

(3) 今後の方針と施策

広域連合の役割として、北アルプス地域を一体とした情報発信等を行うことで、関係市町村が行う観光振興事業に協力します。

従来の広報紙やホームページでの情報発信のほか、SNSの導入や発信内容等について研究し、コンテンツの充実と魅力の向上を図ります。

引き続き、関係市町村で行われる観光・地域振興イベントを、補助等により支援します。

また、観光需要の変化に対応するため、関係市町村等と連携し、より効果的な観光振興に向けた研究を行います。

■SDGsの目標との関連

SDGs17の目標		関連目標
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	関係市町村で開催される観光・地域振興事業を、補助金等により支援する
 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	観光情報の発信等により、関係市町村が行う観光・地域振興事業に協力する